

UIFlow プログラミング環境のセットアップ

UIFlow には ver.1 と ver.2 があるが、M5StickCPLUS2 では ver.1 が安定して動作するため、ver.1 を使う。教科書も ver.1 を利用している。

M5Burner のインストール

M5Stick C PLUS2 (以下、Stick C) にファームウェア (基本となるソフトウェア部分) を書き込むツールとして M5Burner がある。

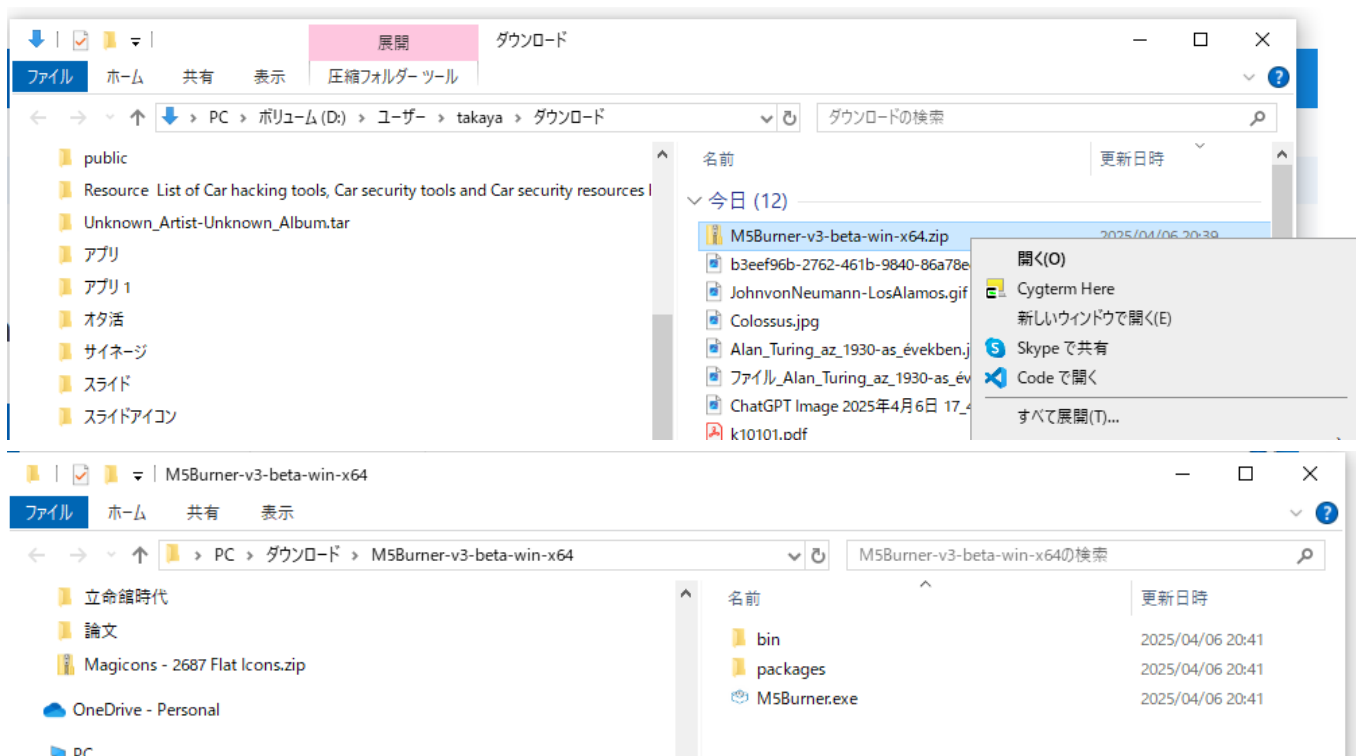
UIFlow も M5Burner を使って利用可能となる。

1. <https://docs.m5stack.com/en/download> にアクセス し、M5Bunrer Win10 x64 v3.0 をダウンロードする。

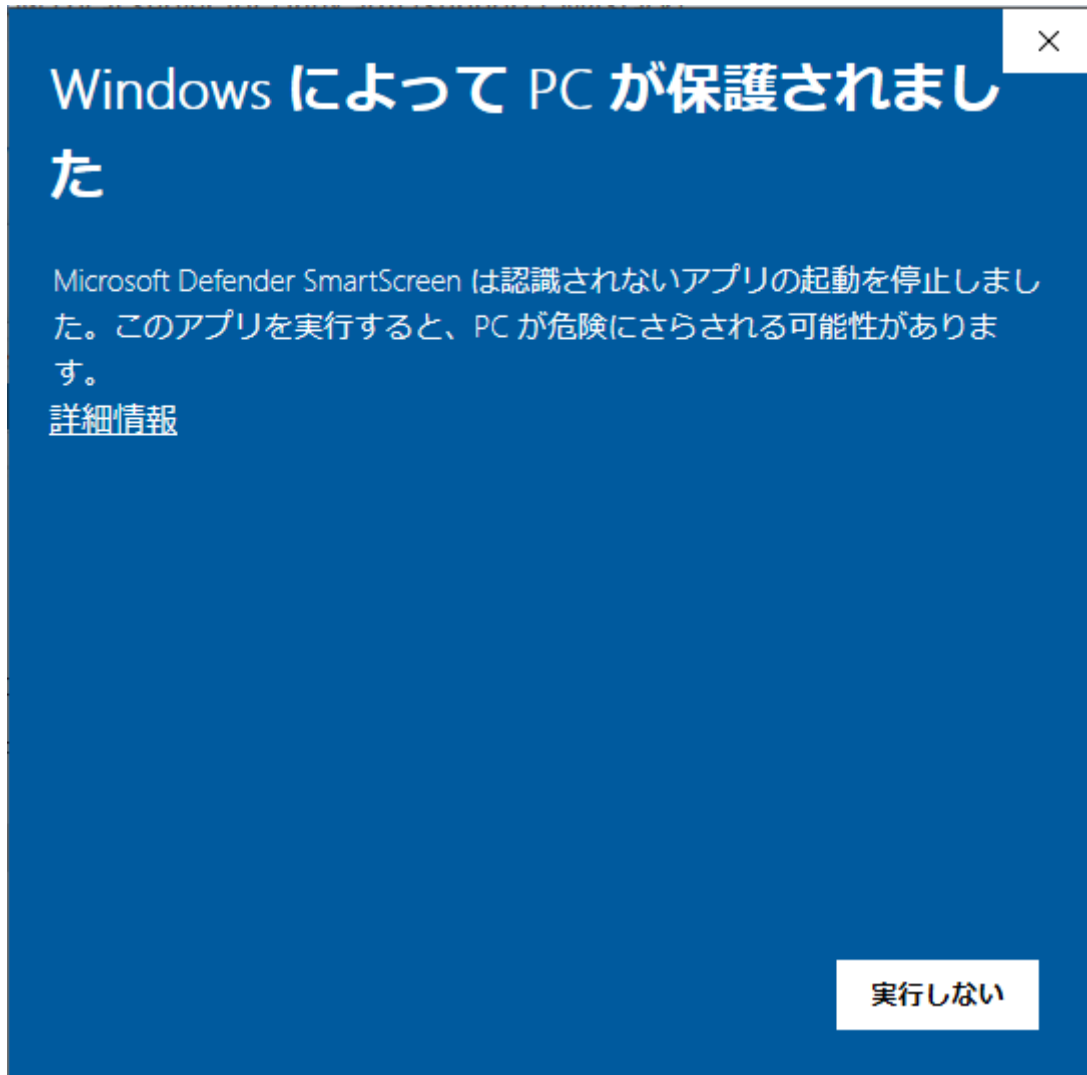
UIFlow Firmware Burning Tool

NO	Name	Download
1	M5Burner Win10 x64 v3.0	↓
2	M5Burner MacOS x64 v3.0	↓
3	M5Burner Linux x64 v3.0	↓

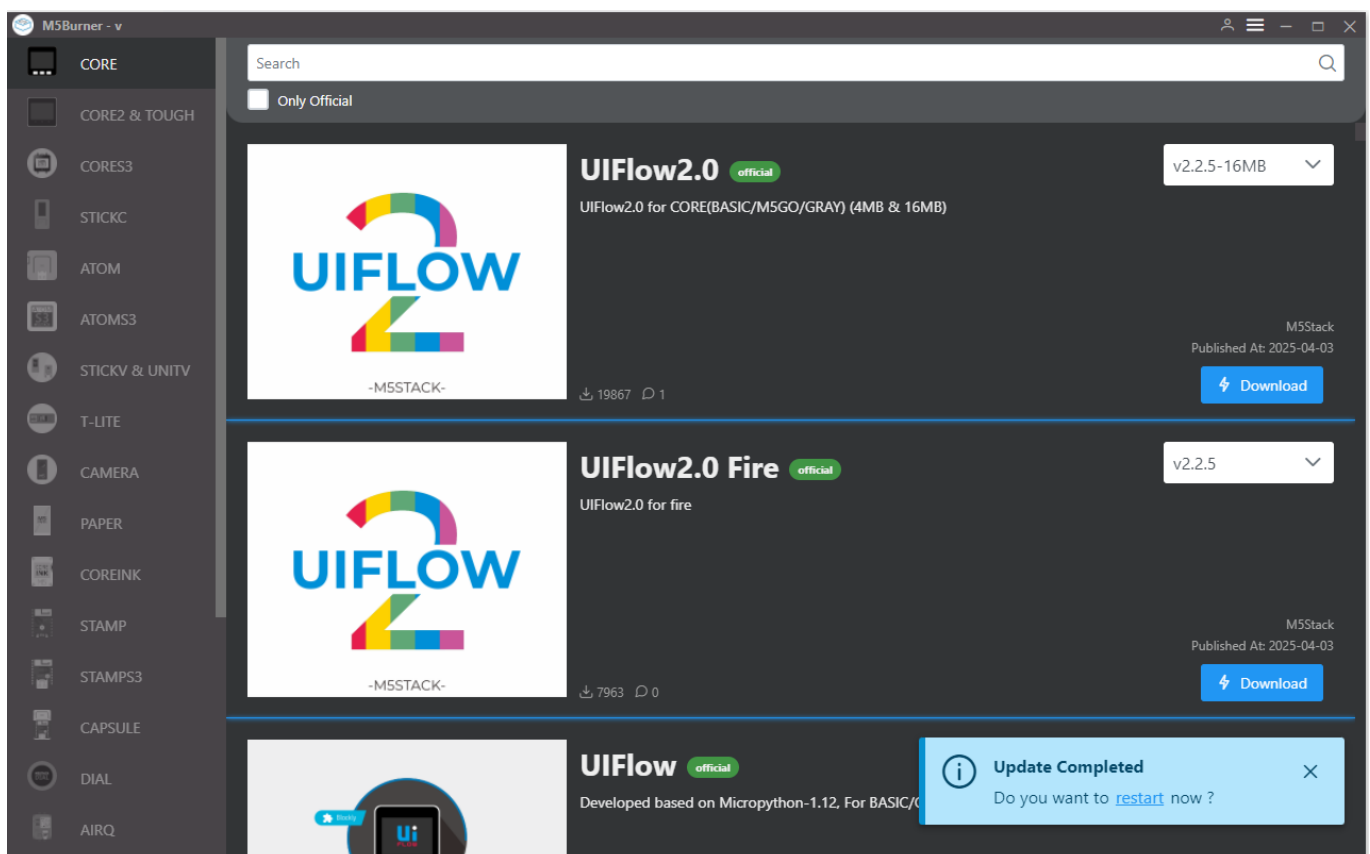
2. ダウンロードした ZIP ファイルを適当な (自分が管理しやすいフォルダに置き) 展開する。ファイルを右クリックして「すべて展開」を選ぶ。exe ファイルが展開される。



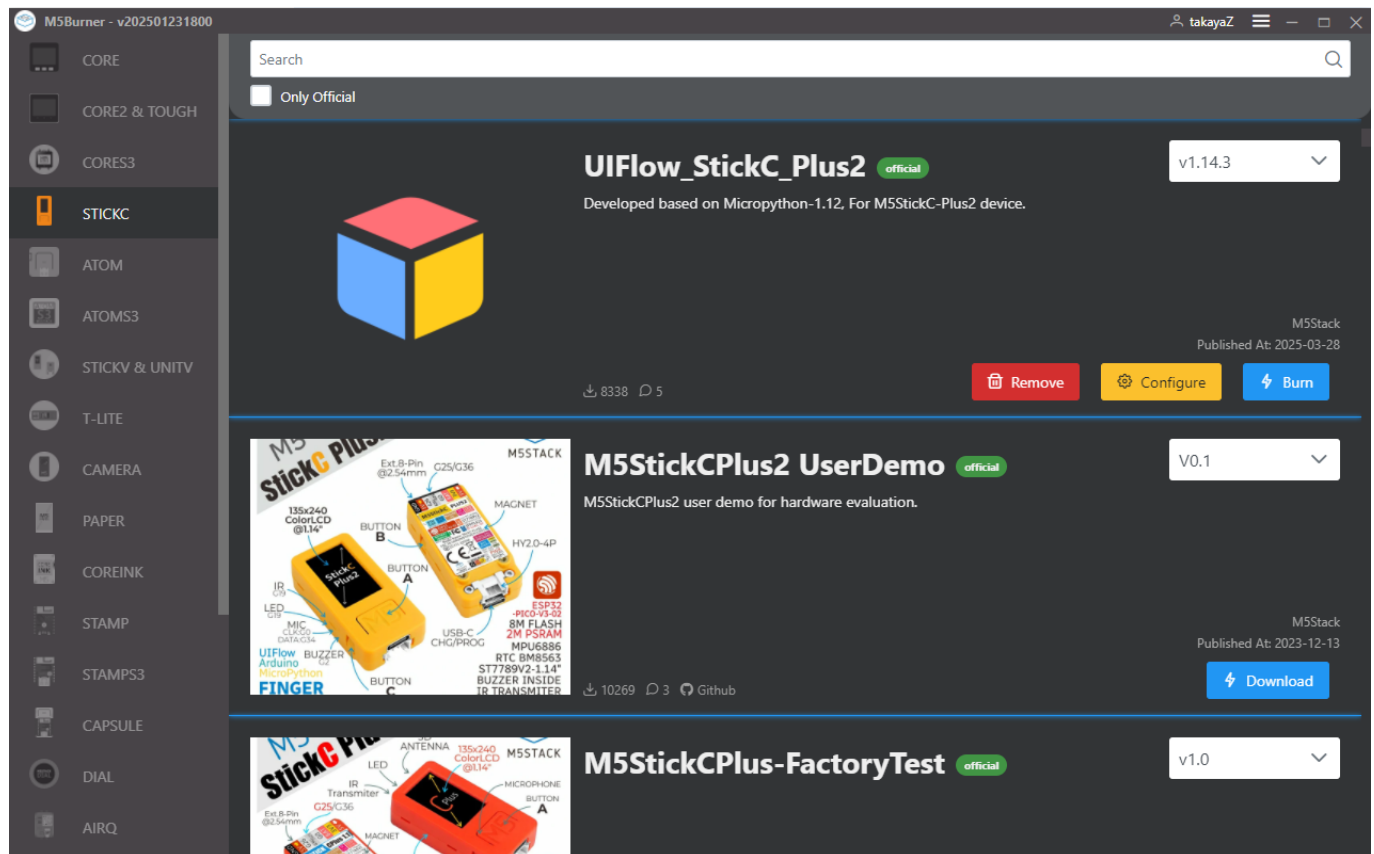
3. 警告が表示されたら、詳細情報をクリックし、「実行」をクリックする。



4. 右下に「更新版があるよ」というメッセージが表示されたら、リスタートする。



5. 左のアイコンから STICKC を選択、右のプログラム一覧から UIFlow_StickC_Plus2 の「Download」ボタンをクリックする。バージョンは v1.14.3。



6. Stick C を PC と接続し、Burn をクリック、WIFI には以下を設定する。
- WIFI SSID: IoT
 - WIFI Passowrd: lotpass2020
 - Server: flow-jp.m5stack.com

UIFlow Configuration

COM

COM3

MAC

0c8b95b82e48

APIKEY

C7FD08A5

Start Mode

Internet Mode

Boot Menu

Show

Boot Beep

On

Server

flow-jp.m5stack.com

WIFI SSID

WIFI Password

.....

COM.X

True

APN

< Cancel

Save

7. Burn ボタンをクリックする。Burn (マイコンにファームウェアを書き込む) には USB の接続が必要だが、Burn したあとは実は USB のケーブルすら必要ない。（電源供給には必要だけど）

Burning

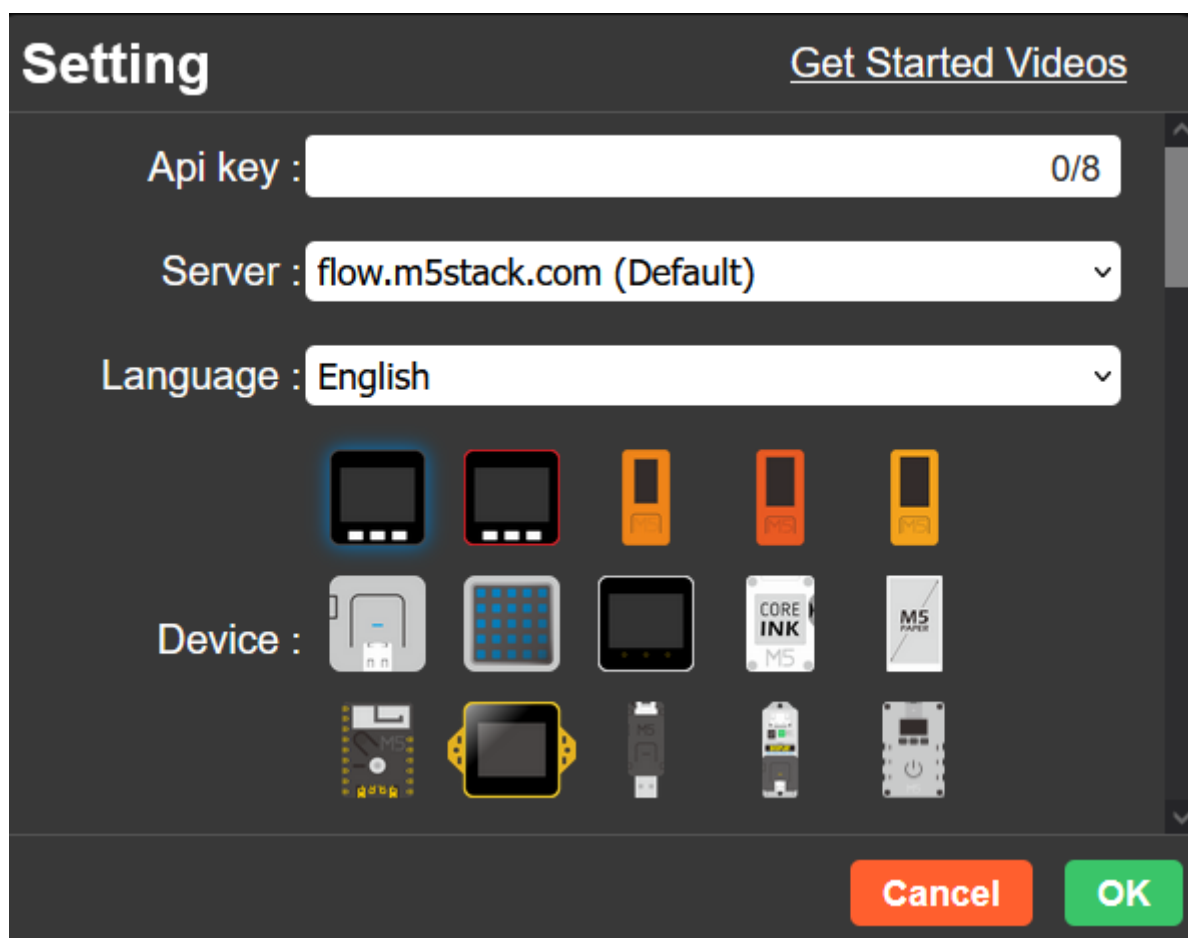
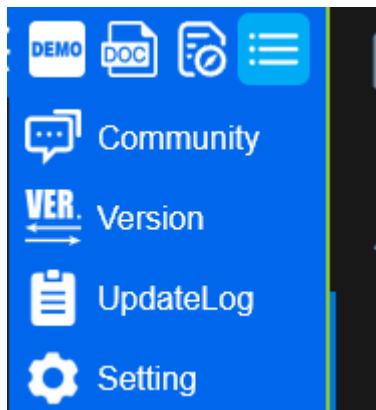
writing at 0x0001083c... (26 %)
Writing at 0x000f8a4e... (27 %)
Writing at 0x000ff03e... (28 %)
Writing at 0x001032d5... (29 %)
Writing at 0x0011179a... (30 %)
Writing at 0x00121ffd... (31 %)
Writing at 0x00128a9e... (32 %)
Writing at 0x0012dc7b... (33 %)
Writing at 0x00132d97... (33 %)
Writing at 0x00137f6c... (34 %)
Writing at 0x0013cfd6... (35 %)
Writing at 0x00141dfc... (36 %)

Waiting for burning

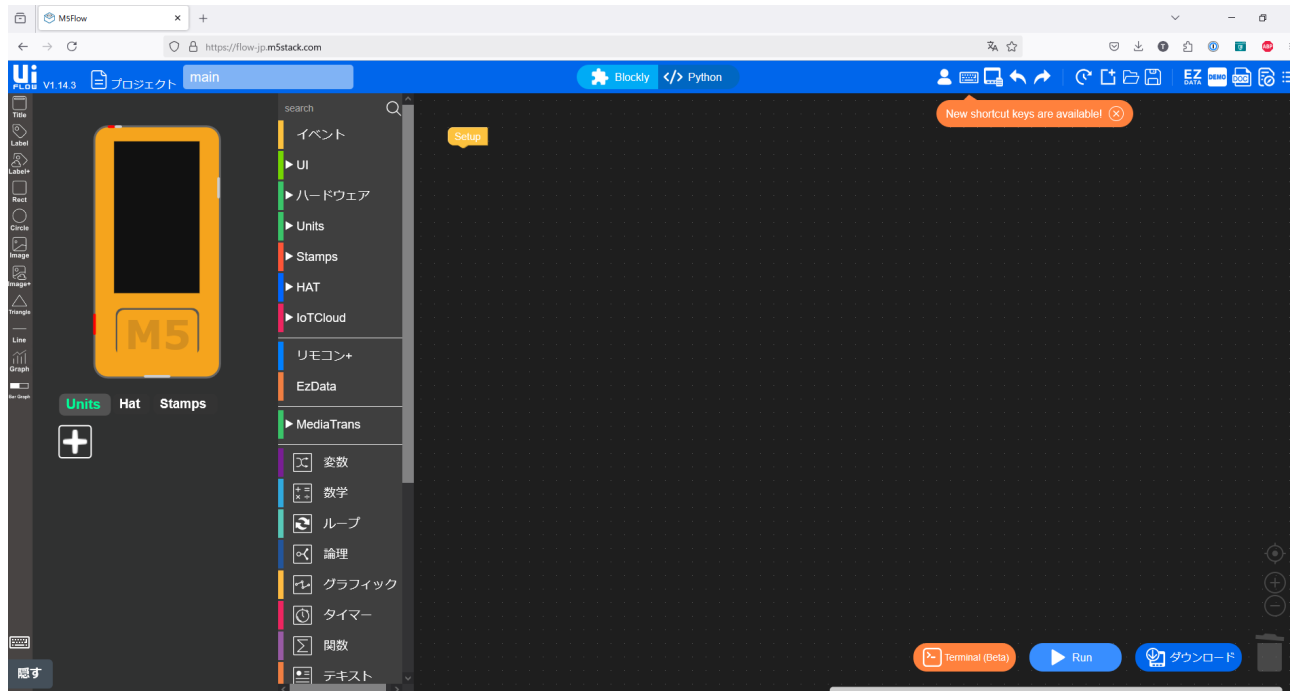
UIFlow を使う

1. <https://flow-jp.m5stack.com/> にアクセスし、右上の横線三本アイコンをクリックし、Setting を開く。
API KEY は Stick C と通信するためのパスワードのようなもので、一致しないとマイコンにプログラムを書くことはできない。

- API KEY: Stick C に表示されている API KEY を設定
- Server: flow-jp.m5stack.com
- Language: 日本語
- Device: M5Stick C PLUS 2



2. セットアップ完了
ここまでいったら、セットアップ OK！



練習

M5Burner にはいろいろなファームウェアが用意されている。M5Stick C PLUS2 用のものをいくつか書き込んで動作させてみよう。たとえば、買った直後（みなさんに配った状態）の M5Stick には M5StickCPlus2 UserDemo が書き込まれている。買った直後の状態に戻してみよう。（試したら UIFlow を書き込んで置くように）